

丸亀市新浜町の藤井学園(藤井睦子理事長)で7日、米ハーバード大と京都大の両グリーククラブのOB会が生徒と交流する事業が行われた。OB会のメンバーは特産の丸亀うちわ作りや盆踊りに挑戦し、日本文化を体験。生徒たちはこれまで学んできた英語を使って、笑顔でメンバーに盆踊りの踊り方を説明するなどし、触れ合いのひとときを楽しんだ。

OB会のメンバーは、6日に高松市で開催したジョイントコンサートのため来県。藤井学園への訪問は、指揮者を務めた京大OBの藤田正浩さん―丸亀市出身―と藤井理事長が同級生という縁で、グ

うちわ作りや盆踊り

藤井学園で生徒と交流

演奏会終え、両大OB

ローバルな人材の育成に力を入れる学園側が英語の実践授業の一環として招待した。

この日は同学園の中高校生742人が日本と米国の国旗を振り、OB会のメンバーら39人を温かく迎えた。うちわ作りでは、メンバーが藤井高3年生37人の案内を受け、美人画や「祭」の文字などがデザインされた地紙を選び、丸亀うちわの伝統工芸士ら4人による指導で竹骨への「貼り」や形に仕上げる「たたき」などの工程に取り組んだ。



生徒と一緒に「金毘羅船々」を踊る米ハーバード大のグリーククラブOB会メンバー―丸亀市新浜町、藤井学園

盆踊りの体験では会場の体育館にちょうちんが下り下げられ、メンバーは生徒から「金毘羅船々」の踊り方を教わった後、法被を身にまとい一緒に踊り、笑顔を見せた。

訪日メンバー代表のベルナルド・クレイガーさん(80)は「踊りは難しいが、エンジョイしている。日本の伝統に触れられてうれしい。良い思い出になった」と喜んだ。同校3年の安田希代璃さん(17)は「会話は大変だったけど笑顔で対応してくれた。英語の勉強を頑張ろうと思ったし、この機会を今後に生かしたい」と声を弾ませていた。